

ミルトンの『楽園喪失』を訳し終えて

Having Translated Milton's *Paradise Lost* into Japanese

佐藤 健治

SATO Kenji

自己拡大による 自己消失
自己探求による 自己消失
これで 悩みは 簿れていく
自分を宇宙大まで拡大して そこから自分を見ると
あまりにも小さいので 悩みなんて 吹きとんでしまう
自分は何で出来ているか と探求していくと
肉体は自分の食べたもので 心は自分の周囲の人のことば
読書からの内容と ^{たど} 辿っていくと 自己なんて 消えていく
ミルトンは これをやったのではなかったか
当時の天文学の知識を利用して 遠い天国から
天使や悪い天使のサタンが 地球にやってきて
キリストと戦い サタンが負ける 聖書の「創世記」から借りて
物語を創り 禁断の木の実を イーブからアダムへと
食べて 楽園を追われる キリストを良心の象徴
サタンを悪心の象徴と見ると『楽園喪失』は
人間の心の中を 物語化したと言えよう
これを書くことによって ミルトンは救われ
これを読むことによって 読者は救われ
まさに『楽園喪失』は 救いの書である と言えよう
サケン は 翻訳は愛である と思っております
愛とは限りなく相手の立場にたって考え行動すること
翻訳とは限りなく原作者の立場にたって考え
その言わんとすることを 可能な限り忠実に表現すること
詩はことばの芸術 論理性よりは
その心 気分 その陰さえにも 気をつけて

中学生が耳できいて分ることばで
 優しい詩に 移しかえようと努めてきた
 それで 語順も 可能な限り
 原文と同じになるようにしてきた
 その一つの例をあげて このスピーチを終わります

Some natural tears they dropped, but wiped them soon; 645
 The world was all before them, where to choose
 Their place of rest, and Providence their guide,
 They, hand in hand, with wandering steps and slow,
 Through Eden took their solitary way.

なにか ひとりでに 涙 落ちて が すぐ拭いて
 世界は すべて 前にあり そこが選んだ
 ふたりの 安らぎの地(神の意志)＜摂理＞が ふたりの案内者
 ふたり 手に手をとって さすらいの歩み とぼとぼと
 エデンを通して たどりゆく ふたりの さみしい道

(訳二〇一四・一〇・二一 —— 二〇一六・一二・一三・ のべ七八四 実七〇四)

(2017年1月受領)